



クラゲには目があるの

クラゲは、かさのふちに感覚器をもっている

クラゲの代表的なものは、すき通ったおわんのような形のかさの下に、足のようものが、種類により4本、あるいは6本たれ下がった、ハチクラゲの仲間です。

このクラゲの仲間は、かさのふちに、細かい触手や感覚器をもっているものが多く、触手にふれた獲物に、すばやく毒針をつきさして弱らせ、口に入れます。かさのふちに触手がないものは、足のように見える口腕に触手をもっていることが多いようです。

感覚器には、目の役目をするものもある

触手の間にある感覚器には、人間の耳の中にあるような平衡感覚器（体の向きを感じとる感覚）と、眼点があります。この眼点は、目の役目をするものですが、人間の目のように高度なしくみではないので、光を感じるぐらいと思われま

す。ホタテガイなどの貝の仲間で、外とう膜のふちに、水晶体や角膜もある目をもっているものがいます。この目は、クラゲの眼点より高度なしくみだけれど、光を感じることにしかできません。何かの影を感じると、さっと貝殻を閉じます。（監修・安部 義孝）

